

伊賀市多文化共生に関するアンケート調査報告書

令和8年3月

第1章 調査概要.....	1
1. 調査の目的.....	1
2. 調査の方法.....	1
3. 配布・回収数.....	1
4. 報告書の見方(注意事項).....	2
第2部 日本人調査.....	3
1. あなた自身について、教えてください。.....	3
2. あなたの日常生活について.....	9
3. 多文化共生について.....	14
第3部 外国人調査.....	27
1. 調査票の言語.....	27
2. 回答者について.....	27
3. 日本語について.....	35
4. 伊賀市での暮らしについて（情報・交流・人権）.....	43
5. 多文化共生のまちづくりについて.....	53
第4部 事業所調査.....	62
1. 事業所について.....	62
2. 外国人を雇用していない事業所の回答.....	65
3. 外国人を雇用している事業所の回答.....	67

第 1 章 調査概要

1. 調査の目的

本市では、日本人住民と外国人住民が交流し、互いの多様性を認め合う「多文化共生社会の実現」をめざしており、令和 3 年に「伊賀市多文化共生プラン」の策定したが、令和 8 年はその改定の時期となっている。改定にあたり、市内に居住している外国人及び日本人に対して、多文化共生の実態や、日頃生活で感じていることを調査し、また市内の事業者に対して、外国人雇用の現状と今後の予定等について調査することで、伊賀市の多文化共生に関する現状と課題を明らかにし、プランの改定に資することを目的とする

2. 調査の方法

- ① 調査対象地域 伊賀市全域
- ② 調査対象者
 - A. 伊賀市在住の 18 歳以上（令和 7 年 4 月 2 日現在）の日本人住民
 - B. 伊賀市在住の 18 歳以上（令和 7 年 4 月 2 日現在）の外国人住民
 - C. 伊賀市に住所を置く事業所及び団体
- ③ 調査期間 令和 7 年 12 月～令和 8 年 1 月 23 日
- ④ 調査方法 郵送によって配布しウェブにて回答・回収（日本人・外国人）
郵送によって配布し調査票で回収（事業所及び団体）

3. 配布・回収数

調査種別	配布数	有効回収数	有効回収率
日本人	1,500	259	17.2%
外国人	1,000	166	16.6%
事業所及び団体	100	30	30.0%

4. 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中のn数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(グラフおよび表中)の比率は、その設問の回答者数(n数)を分母として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数(n数)を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

第2部 日本人調査

1. あなた自身について、教えてください。

問1(1) 性別【n=259】

「男性」が49.4%で最も多く、「女性」が48.6%が続いています。両者の割合はほぼ同等となっており、バランスの取れた性別構成がうかがえます。今後も多様な視点を反映できるよう、引き続き幅広い層からの意見収集が重要です。

男性	49.4%
女性	48.6%
回答しない	1.9%

問1(2) 年齢【n=259】

「60～69歳」が27.0%で最も多く、「40～49歳」が20.5%が続いています。最も少ないのは「80歳以上」で4.6%です。中高年層の割合が高いことから、今後は若年層や高齢層への情報発信やサービスの充実を図ることが重要と考えられます。

18～29歳	7.7%
30～39歳	7.7%
40～49歳	20.5%
50～59歳	20.1%
60～69歳	27.0%
70～79歳	12.4%
80歳以上	4.6%

問1(3) 世帯構成【n=259】

「2世代（親と子どもなど）」が45.9%で最も多く、「夫婦のみ」が24.7%が続いています。最も少ないのは「その他」で0.8%です。家族構成における2世代世帯の割合が高いため、今後は多様な世帯形態への配慮も必要となるでしょう。

ひとり暮らし	13.9%
夫婦のみ	24.7%
2世代（親と子どもなど）	45.9%
3世代以上	14.7%
その他	0.8%

問1(4) 雇用形態【n=259】

「正社員（無期雇用）」が29.0%で最も多く、「パート・アルバイト」が20.5%で続いています。最も少ないのは「研修生・技能実習生」で0.0%です。雇用形態の多様化が進む中、無期雇用の正社員比率が高い一方、研修生・技能実習生の割合が極めて低いことから、今後は雇用形態ごとのニーズや課題に応じた対応が求められます。

正社員（無期雇用）	29.0%
パート・アルバイト	20.5%
正社員（有期雇用）	9.3%
自営業	10.4%
無職（専業主婦・主夫）	10.4%
無職（高齢・病気等で働くことができない）	8.5%
派遣社員	3.1%
無職（求職中）	2.7%
学生	2.3%
研修生・技能実習生	0.0%
その他	3.9%

【その他自由記述】

- ・相談役
- ・農業
- ・年金生活者
- ・お寺手伝い
- ・団体役員
- ・公務員

問1(5) 伊賀市での居住年数【n=259】

「20年以上」が81.9%で最も多く、「10～19年」が5.8%が続いています。最も少ないのは「1～3年」で1.5%です。長期継続者の割合が非常に高いため、今後は新規参入や若年層の増加に向けた取り組みが重要となります。

1年未満	3.1%
1～3年	1.5%
4～5年	2.3%
6～9年	5.4%
10～19年	5.8%
20年以上	81.9%

問1(6) 伊賀市に住んだ理由【n=259】

「伊賀市生まれだから」が50.2%で最も多く、「結婚のため」が17.4%が続いています。最も少ないのは「その他」で7.7%です。出身地や家庭環境が伊賀市に住む主な理由となっているため、今後は新たな移住者の動機づけや魅力発信も意識した施策が求められます。

伊賀市生まれだから	50.2%
結婚のため	17.4%
家族が伊賀市にいる/いたから	14.7%
仕事のため	10.0%
その他	7.7%

【その他自由記述(抜粋)】

- 家族の転居

- 伊賀が好きで移住したから。
- 住宅購入後引越し。
- 土地を購入し家を建てた。
- 親の再婚。
- 新居を構えた結果。
- 他県より引越したため。

問1(7) 居住地区（はがきの宛名シールの下部に書いてある地区名です）

【n=259】

「上野」が51.4%で最も多く、「伊賀」が18.9%が続いています。最も少ないのは「島ヶ原」で2.7%です。

上野	51.4%
伊賀	18.9%
島ヶ原	2.7%
阿山	12.7%
大山田	5.4%
青山	8.9%

問1(8) 住居形態【n=259】

「持ち家（一戸建て）」が87.6%で最も多く、「賃貸（マンション等集合住宅）」が6.6%で続いています。最も少ないのは「持ち家（マンション等集合住宅）」で0.8%です。持ち家（一戸建て）に居住する方が大半を占めているため、今後はこの層のニーズに合った施策を検討することが重要となります。

持ち家（一戸建て）	87.6%
賃貸（マンション等集合住宅）	6.6%
社宅・寮	1.9%
賃貸（一戸建て）	1.6%
持ち家（マンション等集合住宅）	0.8%
その他	1.6%

2. あなたの日常生活について

問2 あなたは、日常生活に必要な情報をどこから入手していますか。（複数選択可）【n=259】

「インターネット・SNS」が74.5%で最も多く、「テレビ・新聞」が63.3%が続いています。最も少ないのは「その他」で1.5%です。情報収集手段としてネットやSNSの活用が中心となっており、多様な媒体への情報発信を検討することが望まれます。

インターネット・SNS	74.5%
テレビ・新聞	63.3%
家族	61.4%
知人・友人	49.4%
広報いが	44.8%
職場の人	36.7%
市のホームページ	17.4%
市役所	6.9%
学校の先生など	3.1%
その他	1.5%

【その他自由記述】

- 特に気になる事もなく、知り合いも居ない為入手していません。
- ボランティアの仲間
- 回覧板

問3 あなたが欲しいと思う情報はどのような情報ですか（複数選択可）【n=259】

「インターネット・SNS」が74.5%で最も多く、「テレビ・新聞」が63.3%が続いています。最も少ないのは「その他」で1.5%です。情報収集手段としてネットやSNSの活用が中心となっており、多様な媒体への情報発信を検討することが望まれます。

健康保険・医療福祉の情報	62.5%
災害など緊急時の対応情報	55.5%
生活に関係する施設や商店の情報	52.7%
市役所のサービス内容や手続き方法	49.6%
地域イベントの情報	47.3%
ごみの出し方についての情報	43.8%
自治会や地域のルール	32.4%
仕事に関する制度や法律などの情報	27.7%
子育て・教育の情報	24.2%
ボランティアや市民団体の紹介	18.0%
外国の文化や生活習慣	13.7%
仕事を探すための情報	12.1%
住宅に関すること	12.1%
その他	3.1%

問4 あなたやあなたの家族のことで心配なことはありますか（複数選択）

【n=259】

「健康のこと」が69.4%で最も多く、「老後のお金のこと」が57.0%が続いています。最も少ないのは「その他」で1.9%です。健康や経済面への関心が高い傾向が見受けられるため、これらの分野に対する継続的な情報提供や支援策の充実が求められます。

健康のこと	69.4%
老後のお金のこと	57.0%
災害時のこと	46.9%
親の介護のこと	39.5%
生活費や教育費のこと	29.8%
住まいのこと	26.4%
仕事のこと	24.4%
相談できる場所が分からないこと	13.2%
出産・子育てのこと	12.4%
友人・知人が少ないこと	10.5%
心配なことはない	10.1%
結婚のこと	8.9%
地域になじめないこと	3.5%
その他	1.9%

【その他自由記述（抜粋）】

- 外国人が増えすぎていること。
- これからの就活

問5 子育てをしている人にお伺いします。伊賀市は子育てしやすいと感じていますか。一つ選んでください。【n=99】

「だいたい感じている」が35.4%で最も多く、「どちらでもない」が34.3%が続いています。最も少ないのは「とても感じる」で4.0%です。感じ方にばらつきがあるため、今後はそれぞれの立場に配慮した情報提供や支援策の工夫が必要です。

とても感じる	4.0%
だいたい感じている	35.4%
どちらでもない	34.3%
あまり感じていない	21.2%
全く感じていない	5.1%

問6 子育てをしている人にお伺いします。子ども（18歳までの子）のことで、心配なことはありますか。（複数選択可）【n=89】

「進路（進学・就職）のこと」が64.0%で最も多く、「学力のこと」が47.2%で続いています。最も少ないのは「心配なことはない」で13.5%です。進路や学力に関する不安が多い傾向があるため、進路指導や学習支援の充実が今後の対応のポイントとなりそうです。

進路（進学・就職）のこと	64.0%
学力のこと	47.2%
友人関係のこと	33.7%
健康・病気のこと	29.2%
言葉・コミュニケーションのこと	21.3%
その他	15.7%
心配なことはない	13.5%

【その他自由記述（抜粋）】

- 学校教育について
- 多様な学びの場があるか？（外国ルーツ・発達・不登校など）
- 学校までの通学手段。
- 子供は遠方に住んでいる。
- いじめ差別。

3. 多文化共生について

問7 あなたは、日常生活で外国人と会話することがありますか。1つ選んでください。【n=257】

「ほとんどない」が46.7%で最も多く、「時々ある」が19.8%が続いています。最も少ないのは「よくある」で16.7%です。今後は「時々ある」や「よくある」と回答した方の背景や要因を丁寧に把握し、必要に応じたサポートや改善策を検討することが求められます。

よくある	16.7%
時々ある	19.8%
たまにある	16.7%
ほとんどない	46.7%

問8 あなたは、伊賀市に住む外国人の友人や同僚がいますか。【n=253】

「今はいないし、今後もいない」が48.2%で最も多く、「今はいないが、ほしい」が28.5%が続いています。「いる」は23.3%です。今後も必要性を感じていない人が多い一方、一定数はニーズを持っているため、希望者への対応策を検討することが求められます。

いる	23.3%
今はいないが、ほしい	28.5%
今はいないし、今後もいない	48.2%

問9 日常生活で外国人とどの程度の交流がありますか。1つ選んでください。

【n=257】

「交流がない」が40.9%で最も多く、「あいさつをする程度」が29.6%が続いています。最も少ないのは「家族同様に親しく付き合う程度」で3.5%です。交流の希薄さがうかがえるため、地域内での関係構築や交流を促進する取り組みが求められます。

家族同様に親しく付き合う程度	3.5%
困ったときに助け合える程度	4.3%
日常生活の話（世間話）をする程度	17.5%
あいさつをする程度	29.6%
その他	4.3%
交流がない	40.9%

【その他自由記述（抜粋）】

- 仕事で海外のお客様とのやり取り。
- 仕事で対応する時がある。
- 会釈する程度。
- 道を聞かれたり、病院を聞かれる。
- うちの店に来るお客様。
- 家族にいる。
- 滞在ゲストと会話。
- 外国籍児童の学習支援。
- ボランティア活動。

問10 あなたは今後、外国人とどのような交流があるといいと思いますか。（複数選択可）【n=257】

「地域の行事に参加してほしい」が38.8%で最も多く、「近所や地域で親しくしたい」が37.3%が続いています。最も少ないのは「その他」で2.4%です。地域とのつながりや親しみを重視する意向がうかがえるため、交流の機会を増やす取り組みが有効と考えられます。

地域の行事に参加してほしい	38.8%
近所や地域で親しくしたい	37.3%
外国の文化を紹介してほしい	32.9%
日本の文化や習慣などを教えたい	32.5%
ボランティア活動に参加してほしい	17.6%
その他	2.4%
交流をしなくてよい	28.6%

【その他自由記述（抜粋）】

- 一緒にイベントを企画運営する
- 日本在住でなくても交流は出来る
- 地域に来た場合は交流します
- 積極的には考えてないが、機会があれば

問11 あなたは、地域や学校などの活動に参加したことがありますか。（複数選択可）【n=258】

「地区の活動（清掃活動・祭りなど）」が73.3%で最も多く、「地区の役員」が47.7%が続いています。最も少ないのは「その他」で3.1%です。地域行事や役員活動への参加が目立ちますが、参加経験がない人や他の活動の割合も一定あるため、多様な参加促進策を検討することが有効と考えられます。

地区の活動（清掃活動・祭りなど）	73.3%
地区の役員	47.7%
学校のPTA活動	37.2%
学校のPTA役員	29.5%
ボランティア活動	26.4%
クラブやサークル活動	15.5%
その他	3.1%
参加したことがない	15.1%

【その他自由記述（抜粋）】

- 消防団。
- 教師として活動に参加。
- 地域高齢者サロンの運営。
- 授業やフィールドワーク。
- 民生委員活動。
- 学校の委員会活動。
- 保育園のPTA活動。

問12 「やさしい日本語」を知っていますか。【n=258】

「知らない」が60.5%で最も多く、「知っていて、使ったことがある」が26.4%で続いています。「知っているが、使ったことはない」は13.2%でした。今後は認知度向上と利用促進の両面から取り組みを検討することが重要です。

知っていて、使ったことがある	26.4%
知っているが、使ったことはない	13.2%
知らない	60.5%

問13 あなたは、伊賀市での生活において、直近3年以内に外国人差別を見たり聞いたりした経験がありますか。【n=259】

「ない（→問15へ）」が85.3%で最も多く、「ある」が14.7%で続いています。現状では「ない（→問15へ）」の割合が高いため、今後も状況の変化を注視し、必要に応じた対応を検討していくことが重要です。

ある	14.7%
ない	85.3%

問14 問13で1を選んだ人。具体的にどのようなことがあったかを可能な範囲で教えてください。

問13で1を選んだ人が38人いましたが、そのうち31人が問14に回答していただきました。その内容は以下の通りです。

内容	人数	記述の概要
差別の場面を見た	18人	ゴミ出しの違反を外国人と決めつけたり、国籍や見た目で偏見を持ち、悪口や差別的な発言を浴びせる場面等を見たとの意見
差別の話を人から聞いた	5人	子どもへのマイクロアグレッションや家主の入居拒否、学校・職場での事案など、報告や人づてで被害を聞いたという意見
外国人の悪い振る舞いを見た・された	11人	ゴミ捨てのマナー違反や農作物の窃盗、注意した際の逆ギレや威嚇行為など、実生活での迷惑行為や被害体験を受けたという意見
その他	6人	ルールを教えるべきという提案や差別発言への反論のほか、外国人への漠然とした不安や偏見に基づく意見等

問15 あなたは伊賀市内にある次の団体や施設を知っていますか。(複数選択可)
【n=256】

「いずれも知らない」が半数を超えており、「伊賀市社会福祉協議会」が31.3%で続いています。最も少ないのは「伊賀日本語の会」で16.4%です。

伊賀市社会福祉協議会	31.3%
NPO法人伊賀の伝丸	30.9%
伊賀市多文化共生センター	29.3%
伊賀市国際交流協会	26.2%
伊賀日本語の会	16.4%
いずれも知らない	51.2%

問16 あなたは伊賀市内にある次の団体や施設を利用したことがありますか。(複数選択可) 【n=178】

「いずれも利用したことがない」が56.7%で最も多く、「伊賀市社会福祉協議会」が35.4%で続いています。最も少ないのは「伊賀市多文化共生センター」で7.9%です。多くの方がこれらの施設を利用していないことから、認知度向上や利用促進のための周知活動が重要と考えられます。

伊賀市社会福祉協議会	35.4%
NPO法人伊賀の伝丸	16.3%
伊賀市多文化共生センター	7.9%
伊賀市国際交流協会	9.0%
伊賀日本語の会	7.9%
いずれも利用したことがない	56.7%

問 17 多文化共生のまちづくりに向けて、充実してきた（良くなった）と思う市の取組はありますか。【n=256】

「特にない」が50.0%で最も多く、「多言語による情報提供」が30.9%が続いています。最も少ないのは「その他」で2.3%です。多くの方が現状に特段の課題を感じていない一方で、情報提供の多言語化について一定の関心が見られるため、今後も多言語対応の充実を意識した取り組みが求められます。

多言語による情報提供	30.9%
外国人の子どもに対する教育	18.0%
外国人の日本語学習支援	15.2%
日本人と外国人の交流イベントの企画	14.8%
差別や偏見をなくし、多様性を尊重する意識づくり	14.8%
外国人相談窓口	14.5%
日本の法律や生活上のルールなどの案内	12.9%
地域での多文化交流をすすめる	9.8%
小さな子(0歳～6歳)がいる外国人の子育て支援	8.6%
日本と外国の生活習慣や文化などの紹介	8.6%
外国人を支援するボランティアを育てる	5.9%
その他	2.3%
特にない	50.0%

【その他自由記述（抜粋）】

- 日本人向けも充実させるべき。
- 外国人向けの情報、やさしい日本語ほんとうはわかりにくい時がある。目線変えないといけない。

問18 外国人と日本人が交流し、地域で一緒に生活するために、市はどんなことに重点的に取り組む必要があると思いますか。(3つまで)【n=257】

「日本の法律や生活上のルールなどの案内」が53.7%で最も多く、「多言語による情報提供」が28.8%が続いています。最も少ないのは「外国人を支援するボランティアを育てる」で3.5%です。外国人支援においては、まず基本的な情報提供や言語面でのサポートが優先されていることから、案内や多言語化の充実が今後の対応の要となりそうです。

日本の法律や生活上のルールなどの案内	53.7%
多言語による情報提供	28.8%
外国人の日本語学習支援	23.7%
差別や偏見をなくし、多様性を尊重する意識づくり	21.0%
外国人の子どもに対する教育	15.2%
外国人相談窓口の充実	14.0%
自治会活動に参加する	13.2%
日本人と外国人の交流イベントの企画	12.5%
地域での多文化交流をすすめる	9.3%
日本人と外国人が意見を交換する場づくり	8.2%
日本と外国の生活習慣や文化などの紹介	7.8%
小さな子(0歳~6歳)がいる外国人の子育て支援	5.8%
外国人を支援するボランティアを育てる	3.5%
その他	5.1%
特にない	13.6%

【その他自由記述(抜粋)】

- 日本の文化や常識を教えること。
- 日本文化への理解。
- 外国料理の店の紹介。

- 日本人同士の絆から結びなおす必要があるので無理に外国人を増やさないでほしい。
- 育成就労制度で来た方へ対する受け入れ先企業の責任の明確化。（受け入れっぱなしにしない・ちゃんとフォローする）
- 日本のモラルやルールを守れる、日本語が理解出来る人のみを受け入れる。

問19 伊賀市に住んで良かったと感じていますか。1つ選んでください。【n=256】

「どちらでもない」が38.3%で最も多く、「だいたい感じている」が20.7%が続いています。最も少ないのは「とても感じている」で8.2%です。多くの方が中立的またはやや肯定的な印象を持っていることから、さらに具体的な状況把握や意見の背景を丁寧に確認することが今後の課題となりそうです。

とても感じている	8.2%
だいたい感じている	20.7%
どちらでもない	38.3%
あまり感じていない	16.0%
全く感じていない	16.8%

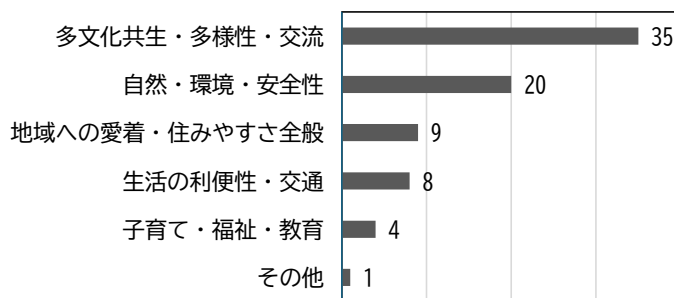
問20 問19で伊賀市に住んで良かったと思う理由、良くないと思う理由を教えてください。

回答した人は135人(52.2%)おり、内容としては223あげられています。

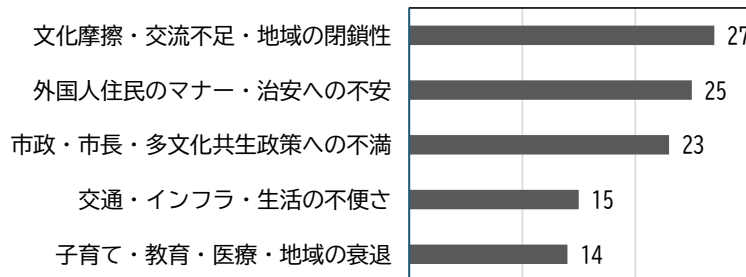
内容	件数	人数
良かった点	77件	64人
良くない点	120件	73人
中立	26件	24人

内容をカテゴリに分けると次のとおりです。

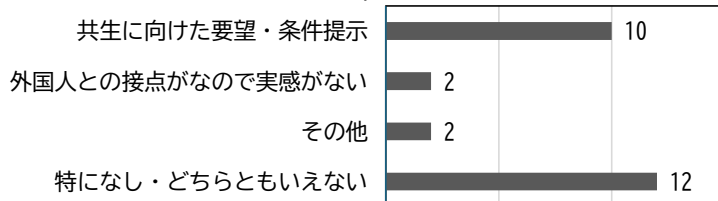
良かった点



良くない点



中立



問21 外国人住民が増えていることについて、どのように感じていますか。（複数選択可）【n=256】

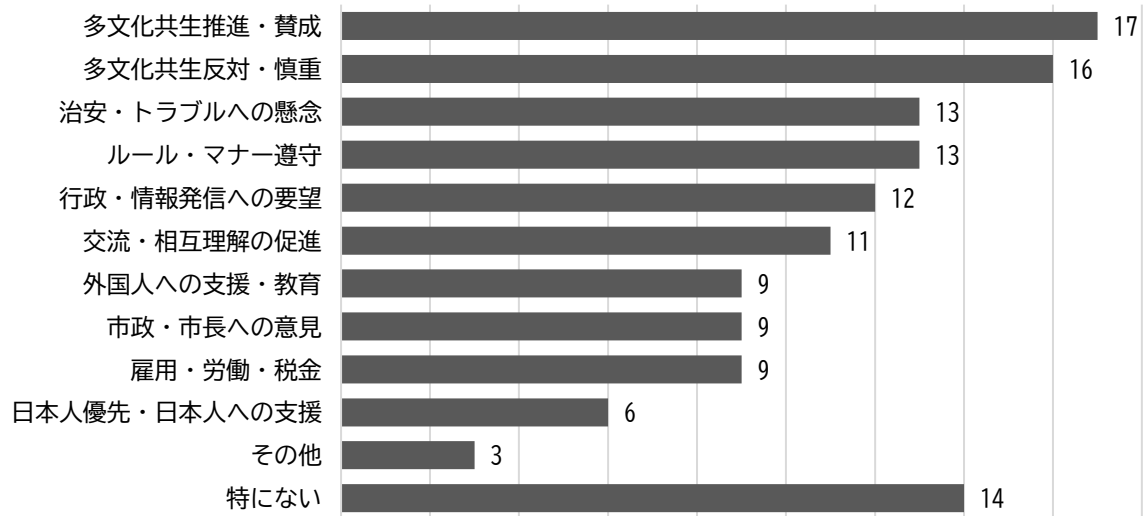
文化や習慣の違いによるトラブルが増える	51.2%
社会に多様性が生まれる	38.3%
緊急時や災害時の地域活動でトラブルが生じないか不安に感じる	35.2%
地域の環境（治安、風紀等）に悪影響が生じる	33.6%
人手不足が解消される	33.6%
外国の言葉や文化、習慣を知る機会が増える	28.1%
地域の活性化につながる	19.9%
外国人向けサービスの増加により、日本人へのサービスが低下する	17.2%
経済的な発展や賑わいにつながる	17.6%
日本人の働き先や仕事が減る	15.2%
その他	6.6%

【その他自由記述（抜粋）】

- 外国人犯罪が増えることで人口流出を招き、さらに外国人が入ってくる。
- ルール守れないなら日本に来ないで欲しい。
- 外国人ヘイトが強まっているから差別で傷ついている人がいないか心配
- 文化や価値観の違いで事件が起きないか心配
- 犯罪が増える。

問 22 伊賀市の多文化共生施策に対して、何かご意見やご要望などありましたら教えてください。

90 人から、132 件の意見をいただきました。その内訳は次の通りです。



第3部 外国人調査

1. 調査票の言語

「ポルトガル語」が27.1%で最も多く、「ベトナム語」が24.7%が続いています。

【n=166】

ポルトガル語	27.1%
ベトナム語	24.7%
やさしい日本語	19.3%
英語	12.0%
中国語	10.2%
スペイン語	6.6%

2. 回答者について

問1(1)性別【n=166】

「男性」が60.2%、「女性」が39.8%で男性の方が20.4ポイント多くなっています。

男性	60.2%
女性	39.8%
回答しない	0.0%

問1(2)年齢【n=166】

「30～39歳」が38.6%で最も多く、「1829歳」が23.5%が続いています。70歳以上の人は0%です。若年から中年層の割合が高い一方、高齢層の回答者が少ない結果になっています。

18～29歳	23.5%
30～39歳	38.6%
40～49歳	20.5%
50～59歳	10.8%
60～69歳	6.6%
70～79歳	0.0%
80歳以上	0.0%

問1(3)世帯構成【n=166】

「2世代(親と子どもなど)」が41.0%で最も多く、「ひとり暮らし」が33.1%が続いています。

3世代以上	6.0%
2世代(親と子どもなど)	41.0%
夫婦のみ	16.3%
ひとり暮らし	33.1%
その他	3.6%

問1(4)国籍【n=166】

「ブラジル」が30.1%で最も多く、「ベトナム」が26.5%が続いています。最も少ないのは「タイ」で3.6%、「ミャンマー」は0.0%です。

ブラジル	30.1%
ベトナム	26.5%
中国	11.4%
フィリピン	10.2%
インドネシア	6.6%
ペルー	6.0%
タイ	3.6%
ミャンマー	0.0%
その他	5.4%

【その他自由記述】

ネパール	4
スリランカ	1
米国	1
インド	1
ドイツ	1
チリ	1

問1(5)在留資格【n=166】

「永住者」が38.6%で最も多く、「技能実習」「技術・人文知識・国際業務」が15.1%で続いています。最も少ないのは「日本人の配偶者」2.4%で、「特別永住者」は0%です。

永住者	38.6%
技術・人文知識・国際業務	15.1%
技能実習	15.1%
定住者	12.0%
特定技能	8.4%
家族滞在	4.8%
日本人の配偶者等	2.4%
特別永住者	0.0%
その他	3.6%

【その他自由記述】

- 永住者の配偶者または子供。
- 特例ビザで滞在。
- 永住者の配偶者等。
- 長期滞在者。
- 実習生・インターン。
- 文化研究ビザ。

問1(6)雇用形態【n=166】

「正社員(無期雇用)」が33.1%で最も多く、「派遣社員」が17.5%が続いています。これらに「正社員(有期雇用)」、「技能実習生」を合わせると8割以上の外国人が比較的安定した雇用形態で労働していることがうかがえます。

正社員(無期雇用)	33.1%
派遣社員	17.5%
正社員(有期雇用)	16.9%
技能実習生	14.5%
自営業	4.8%
パート・アルバイト	3.6%
無職(専業主婦・主夫)	3.0%
無職(求職中)	2.4%
学生	1.2%
無職(高齢・病気等で働くことができない)	1.2%
その他	1.8%

【その他自由記述】

- 家族滞在、就労不可。
- ビザのせいで働けない。
- 退職。

問1(7)日本での滞在年数(通算) 【n=166】

「20年以上」が22.3%で最も多く、「1～3年」が21.7%が続いています。最も少ないのは「1年未満」で6.0%です。6年以上滞在している人が半数を超えている一方で、3年以内の人も27.7%います。

1年未満	6.0%
1～3年	21.7%
4～5年	10.2%
6～9年	18.1%
10～19年	21.7%
20年以上	22.3%

問1(8)伊賀市での居住年数(通算) 【n=166】

「1～3年」が24.1%で最も多く、「10～19年」が23.5%が続いています。最も少ないのは「1年未満」で10.2%です。経験年数が短い層と中長期の層がそれぞれ一定割合を占めており、幅広い年数に対応した施策検討が重要となります。

1年未満	10.2%
1～3年	24.1%
4～5年	13.3%
6～9年	15.1%
10～19年	23.5%
20年以上	13.9%

問1(9) 伊賀市に住んだ理由【n=166】

「仕事のため」が67.5%で最も多く、「家族が伊賀市にいる/いたから」が25.3%で続いています。最も少ないのは「伊賀市生まれだから」で0.6%です。仕事や家族の事情が伊賀市との関わりの主な動機となっているため、今後も就業機会の充実や家族支援策の強化が重要と考えられます。

仕事のため	67.5%
家族が伊賀市にいる / いたから	25.3%
結婚のため	6.0%
伊賀市生まれだから	0.6%
その他	0.6%

問1(10) 居住地区【n=166】

「伊賀」が57.8%で最も多く、「上野」が26.5%で続いています。最も少ないのは「島ヶ原」で0.6%です。

上野	26.5%
伊賀	57.8%
島ヶ原	0.6%
大山田	5.4%
阿山	4.8%
青山	4.8%

問1(11) 住居形態【n=166】

「持ち家(一戸建て)」が31.3%で最も多く、「賃貸(マンション等集合住宅)」が27.1%が続いています。最も少ないのは「持ち家(マンション等集合住宅)」で2.4%です。

持ち家(一戸建て)	31.3%
賃貸(マンション等集合住宅)	27.1%
社宅・寮	25.9%
賃貸(一戸建て)	12.7%
持ち家(マンション等集合住宅)	2.4%
その他	0.6%

【その他自由記述】

- 家族の家。

3. 日本語について

問2(1) 日本語を 聞いて どのくらい 分かりますか。【n=166】

「ゆっくり話してくれれば少し理解できる」が34.9%で最も多く、「ゆっくり話してくれればだいたい理解できる」が25.9%が続いています。最も少ないのは「会話がすべて分かる」と「ほとんど分からない」で10.2%でなっています。

会話がすべて 分かる	10.2%
会話がだいたい 分かる	18.7%
ゆっくり 話してくれれば だいたい 分かる	25.9%
ゆっくり 話してくれれば 少し 分かる	34.9%
ほとんど 分からない	10.2%

問2(2) 問2(1)で 「ほとんど分からない」以外を選んだ人に聞きます。どのような内容ですか。【n=149】

「会社の指示や命令、ルールなどを聞いて、そのとおり動ける」が73.2%で最も多く、「日本人との日常会話」が66.4%が続いています。最も少ないのは「テレビ、ラジオ」で19.5%です。

会社の指示や命令、ルールなどを 聞いて、そのとおり動ける	73.2%
日本人との日常会話	66.4%
病院での手続き（受付や支払いなど）	34.2%
医師の問診や病状の説明	24.8%
保育所・幼稚園・学校からの お知らせと連絡	26.2%
テレビ、ラジオ	19.5%

問3 日本語を どのくらい 話せますか。【n=166】

「単語や短い文で自分の言いたいことが少し言える」が 51.8%で最も多く、「母語ほどではないが自分の言いたいことがだいたい話せる」が 22.3%で続いています。最も少ないのは「自分の言いたいことが母語と同じくらい話せる」で 6.0%です。

自分の言いたいことが母語と同じくらい話せる	6.0%
母語ほどではないが自分の言いたいことがだいたい話せる	22.3%
単語や短い文で自分の言いたいことが少し言える	51.8%
自己紹介や挨拶ぐらいであれば言える	13.3%
ほとんど話せない	6.6%

問4(1) 日本語を どのくらい 読めますか。【n=166】

「建物名や看板の文字(図書館、銀行、公園など)」が 76.7%で最も多く、「仕事のマニュアルや 日誌、指示書など」が 50.4%で続いています。最も少ないのは「新聞、雑誌」で 14.0%です。

生活や 仕事に 必要な 書類などを 読んで 十分に 理解できる	6.6%
生活や 仕事に 必要な 書類などを 読んで だいたい 理解できる	13.9%
漢字に ぶり 仮名が ついていれば 読める	26.5%
短くて 簡単な 日本語で 書いてあれば 読める	30.7%
ほとんど 読めない	22.3%

問4(2)問4(1)で「ほとんど読めない」以外を選んだ人に聞きます。どのようなものを読めますか。【n=129】

「建物名や看板の文字(図書館、銀行、公園など)」が61.2%で最も多く、「仕事のマニュアルや 日誌、指示書など」が26.4%で続いています。

新聞、雑誌	14.0%
建物名や看板の文字(図書館、銀行、公園など)	76.7%
仕事のマニュアルや日誌、指示書など	50.4%
病院での手続き(受付、支払い)	31.8%
病院の問診表や薬の飲み方	29.5%
保育所、幼稚園、学校からのお知らせ	27.9%

問5 日本語をどのくらい書けますか。【n=166】

「ひらがなとカタカナで会社や学校の名前、住所などが書ける」が42.2%で最も多く、「ほとんど書けない」が22.9%で続いています。最も少ないのは「生活や仕事に必要な文章がすべて書ける」で7.8%です。

生活や 仕事に 必要な文章がすべて書ける	7.8%
生活や 仕事に 必要な文章がたいだい書ける	11.4%
漢字を 使って 会社や学校の 名前、住所などが 書ける	15.7%
ひらがなと カタカナで 会社や学校の 名前、住所などが 書ける	42.2%
ほとんど 書けない	22.9%

問6 あなたは 今、日本語を 学んでいますか。【n=166】

「はい」と「いいえ」がともに 50.0%で拮抗しています。

はい	50.0%
いいえ	50.0%

問7 問6で「はい」を選んだ人に聞きます。どうやって 日本語を 学習していますか？（複数選択可）【n=83】

「家で、自分で学習している」が 91.6%で最も多く、「友人や地域の人に教えてもらっている」が 19.3%が続いています。最も少ないのは「その他」で 1.2%です。

家で、自分で学習 している	91.6%
その他	1.2%
会社で日本語の先生に教えてもらっている	4.8%
会社で日本人従業員に教えてもらっている	9.6%
日本語教室で勉強している	12.0%
友人や地域の人に教えてもらっている	19.3%

【その他自由記述】

- インドネシアに3ヶ月滞在して学んだこと

問8 問6で「はい」を選んだ人に聞きます。日本語を学ぶ理由はですか？（複数選択可）【n=83】

「生活するために必要だから」が77.1%で最も多く、「現在の仕事に必要だから」が67.5%が続いています。最も少ないのは「その他」で3.6%です。生活や就労に直結する理由が上位になっていることから、日常生活や職場での日本語力向上を支援する教材や環境づくりが重要と考えられます。

生活するために必要だから	77.1%
現在の仕事に必要だから	67.5%
日本語や日本の文化が好きだから	50.6%
日本語能力試験（JLPT） や実用日本語検定（J.TEST）合格のため	42.2%
日本人と親しくなりたいから	39.8%
より条件のよい仕事に就きたいから	37.3%
帰国後に日本語を使った仕事をしたいから	19.3%
学校の先生とのコミュニケーションのため	12.0%
家族とのコミュニケーションのため	10.8%
その他	3.6%

【その他自由記述】

- キャリアのため
- お金をかせぐため
- 自給自足するため

問9 問6で「いいえ」を選んだ人に聞きます。今、日本語を学んでいない理由を教えてください。（複数選択可）【n=83】

「忙しくて日本語を学ぶ時間がないから」が50.6%で最も多く、「日本語教室に通うお金がないから」が22.9%で続いています。最も少ないのは「日本語を学びたくないから」で1.2%です。学習機会の提供には、時間や費用面で参加しやすい工夫が求められます。

忙しくて日本語を学ぶ時間がないから	50.6%
日本語教室に通うお金がないから	22.9%
近所に日本語教室がないから	21.7%
もう十分に日本語ができるから (日本語で困っていない)	18.1%
日常生活や仕事で日本語を使うことがないから	6.0%
日本語を学びたくないから	1.2%
その他	8.4%

【その他自由記述】

- 仕事で忙しい
- 二人の小さな子どもがいるため
- 中国語で十分
- 賢くないから
- タイミングが悪かったのでしょうか？
- 工場での労働時間が長くなると時間が足りなくなることもありますが、働いている工場では毎日少しずつ学んでいます。もっと頑張ります。
- 誰かに教えてもらうように何かを学ぶのが難しい、そうでしょうか？私は何かを学ぶことができます、私はオンラインで仕事を販売している仮想世界との関わりに困難を感じています。私は仕事のために家を出ました、私は家にいる人々の路上でパニックになり、社交することができません

問10 どんなときに日本語を学ぼうと思いますか？（複数選択可）【n=83】

「仕事で必要なとき」が41.0%で最も多く、「コミュニケーションで必要になったとき」が39.8%で続いています。最も少ないのは「その他」で18.1%です。主な理由が仕事やコミュニケーションに集中しているため、今後は学習目的や資格取得など幅広い動機にも対応できる支援策の検討が効果的と考えられます。

コミュニケーションで必要になったとき	39.8%
生活するために必要なとき	38.6%
もっと日本語や日本のことを学びたいとき	28.9%
日本人と親しくなりたいとき	26.5%
日本語能力試験（JLPT）や実用日本語検定（J.TEST）を受けるとき	24.1%
より条件のよい仕事に就きたいとき	22.9%
その他	18.1%
仕事で必要なとき	41.0%

【その他自由記述】

- もし日本人が私の友達になりたいと思ってくれたら。
- 日本語が理解できないために日本人が私を攻撃していると感じたとき。
- 理由はない。
- 母国語より日本語で生活しているので必要がないと思います。資格を取る時などでは勉強はしています。
- 時間が取れないようですが、これを優先しなければなりません。自分の日本語が恥ずかしいです。
- 養子縁組のために
- 時間とお金がある場合や必要な場合
- 日本語の勉強を再開する準備をしています。
- 工場ではほぼ毎日勉強し、新しい単語を書き留め、実践しようと努めていますが、今年はさらに努力します。

問11 今後、どのような日本語学習機会があればいいと思いますか？（複数選択可）【n=166】

「近所や地域で学習できる場があるといい」が55.4%で最も多く、「インターネットやアプリなどで日本語が学習できるといい」が53.0%が続いています。最も少ないのは「その他」で4.2%です。

近所や地域で学習できる場があるといい	55.4%
インターネットやアプリなどで日本語が学習できるといい	53.0%
通信講座など、自宅で学習できる教材があるといい	35.5%
職場で教えてくれるといい	28.3%
家庭教師の派遣があるといい	11.4%
勉強するつもりはない	4.2%
その他	4.8%

【その他自由記述】

- 言語交換。
- 夜間に正式な授業に出席できれば良いだろう。
- 毎日学ぶ。
- 私たちの給料は、一部の日本人の固定給と比べると非常に低いため、ビザを取得し、税金を支払うための収入が必要で負担が大きくなります。そのため、こうしたコースを受講する時間がなかなか取れないこともありますが、それでも努力して上達したいと思っています。
- 小さな子供がいても、家で勉強できたらいいのに。
- アポロジストのコース。（誰にも属さない）

4. 伊賀市での暮らしについて（情報・交流・人権）

問12 あなたは、日常生活に必要な情報をどこから入手していますか。（複数選択可）【n=166】

「職場の人」が59.6%で最も多く、「知人・友人」が55.4%が続いています。最も少ないのは「その他」で0.6%です。人との直接的なつながりが情報源として重視されている様子うかがえるため、こうしたネットワークを活用した情報発信の工夫が求められます。

職場の人	59.6%
知人・友人	55.4%
インターネット・SNS	51.8%
広報いが	35.5%
家族	31.3%
外国語版情報紙「伊賀」	31.3%
市役所	24.1%
テレビ・新聞	19.3%
多文化共生センターホームページ・facebook	19.9%
学校の先生など	11.4%
日本語教室や伊賀の伝丸	3.6%
その他	0.6%

【その他自由記述】

- 同僚。

問13 あなたが欲しいと思う情報はどのような情報ですか。（複数選択可）

【n=166】

「職場の人」が59.6%で最も多く、「知人・友人」が55.4%が続いています。最も少ないのは「その他」で0.6%です。前問と同様に、人との直接的なつながりが情報源として重視されている様子が見えます。

日本文化や生活習慣	50.0%
健康保険・医療福祉の情報	50.6%
災害など緊急時の対応の情報	47.0%
日本語教室に関する情報	42.2%
仕事に関する制度や法律などの情報	41.6%
子育て・教育の情報	31.3%
自治会や地域のルール	31.3%
仕事を探すための情報	30.7%
生活に関係する施設や商店の情報	30.1%
地域イベントや日本人との交流	27.1%
ごみの出し方についての情報	26.5%
市役所のサービス内容や手続き方法	26.5%
住宅に関すること	24.1%
ボランティアや市民団体の紹介	14.5%
その他	2.4%

【その他自由記述】

- 日本のことで知りたいことなんてない。
- お金のこと。
- アーティストが作品を発表する機会。
- 永住ビザの取得方法。お金を稼ぐ方法。

問 14 あなたやあなたの家族のことで、心配なことはありますか。（複数選択可）

【n=166】

「健康のこと」が44.0%で最も多く、「老後のお金のこと」が42.2%が続いています。最も少ないのは「その他」で0.0%です。不安や悩みの上に健康や経済面が挙げられるため、これらへの具体的な支援や情報提供が求められます。

健康のこと	44.0%
老後のお金のこと	42.2%
仕事のこと	36.7%
災害時のこと	35.5%
生活費や教育費のこと	33.7%
住まいのこと	21.7%
出産・子育てのこと	16.9%
友人・知人が少ないこと	13.9%
相談できる場所が分からないこと	12.0%
地域になじめないこと	10.8%
親の介護のこと	9.0%
結婚のこと	6.6%
子どもが母国の言葉や文化を知らないこと	4.8%
その他	18.7%
心配なことはない	0.0%

【その他自由記述】

- 私はもう年寄りだ。年金は生活するにはあまりにも少なく、年齢のせいでも仕事も雇ってもらえない。
- 家族のこと。
- 仕事とお金。

問 15 伊賀市は子育てしやすいと感じていますか。1つ選んでください。【n=166】

「とても感じている」が43.2%で最も多く、「だいたい感じている」が34.2%で続いています。最も少ないのは「全く感じていない」で4.5%です。多くの方が肯定的に感じている状況がうかがえるため、さらなる向上に向けた取り組みが必要と考えられます。

とても感じている	43.2%
だいたい感じている	34.2%
どちらでもない	9.0%
あまり感じていない	9.0%
全く感じていない	4.5%

問16 子ども（18歳までの子）のことで、心配なことはありますか。（複数選択可）【n=166】

「進路(進学・就職)のこと」が47.1%で最も多く、「友人関係のこと」が37.3%が続いています。最も少ないのは「その他」で4.9%です。進路や人間関係への不安が中心となっているため、それぞれの悩みに応じた個別のサポート体制の充実が求められます。

進路（進学・就職）のこと	47.1%
友人関係のこと	37.3%
学力のこと	31.4%
言葉・コミュニケーションのこと	26.5%
子どもと先生とのコミュニケーションのこと	26.5%
その他	4.9%
心配なことはない	25.5%

【その他自由記述】

- メンタルヘルス、過負荷状態の親をサポートする心理士はいません。私は幼い孫たちを育てています。例えば、未っ子を学校の友達と一緒にハイトピア4階で遊ばせることはできません。そこは一番小さな子専用だからです。では、8歳の娘をどこに預ければいいのでしょうか？外から眺めるだけ？
- より良い生活。
- 子供はいない。
- 中国ことを偉大な国と教えないから。

問17 あなたは、日常生活で日本人と会話することがありますか。1つ選んでください。【n=166】

「よくある」が41.6%で最も多く、「時々ある」が34.3%が続いています。最も少ないのは「ほとんどない」で7.2%です。今後は「よくある」「時々ある」と回答した層の具体的な状況や背景を把握し、適切な支援策を検討することが重要です。

よくある	41.6%
時々ある	34.3%
たまにある	16.9%
ほとんどない	7.2%

問18 あなたは、伊賀市に住む日本人の友人や同僚がいますか。【n=166】

「いる」が71.1%で最も多く、「いない」が28.9%が続いています。今後は「いない」と回答した層への情報提供やサポートの強化を検討することが望めます。

いる	71.1%
いない	28.9%

問 19 日常生活で日本人とどの程度の交流がありますか。1つ選んでください。

【n=166】

「あいさつをする程度」が40.4%で最も多く、「日常生活の話（世間話）をする程度」が31.9%が続いています。最も少ないのは「家族同様に親しく付き合う程度」で1.8%です。地域住民間のつながりは比較的浅い傾向がうかがえるため、交流を深める機会づくりが今後の課題となりそうです。

家族同様に親しく付き合う程度	1.8%
日常生活の話（世間話）をする程度	31.9%
あいさつをする程度	40.4%
困ったときに助け合える程度	18.7%
交流がない	1.8%
その他	5.4%

【その他自由記述】

- 遠くから挨拶するだけ。近所の人たちさえ興味がないのだから。孫の友達の親たち。
- 事務仕事をしているので毎日誰かとコミュニケーションはとってます。
- 通訳の仕事と友達。

問 20 地域や学校などの活動に参加したことがありますか。（複数選択可）

【n=166】

「その他」が59.6%で最も多く、「地区の役員」が28.3%が続いています。最も少ないのは「参加したことがない」で1.2%です。多様な参加経験が見られる一方、「その他」が多い理由や具体的な活動内容の把握が今後の課題となりそうです。

地区の役員	28.3%
ボランティア活動	6.0%
学校のPTA役員	5.4%
クラブやサークル活動	5.4%
地区の活動（清掃活動・祭りなど）	4.8%
学校のPTA活動	3.0%
参加したことがない	1.2%
その他	59.6%

【その他自由記述】

- まだ参加したことがない。
- つたまるの手伝いしたことある。
- その様な機会があれば参加したいです。
- 行った事が無い。
- 保育園の活動に参加しました。

問21 今後、日常生活で日本人とどのような交流・活動をしたいですか。1つ選んでください。【n=166】

「近所や地域の人と親しくしたい」が57.2%で最も多く、「地区の活動(清掃活動・祭りなど)に参加したい」が13.9%が続いています。最も少ないのは「地区や学校PTAの役員をしたい」で0.6%です。地域との日常的なつながりを重視する傾向がうかがえるため、交流の機会を気軽に持てる場づくりが今後のポイントとなりそうです。

近所や地域の人と親しくしたい	57.2%
地区の活動(清掃活動・祭りなど)に参加したい	13.9%
母国の文化や習慣などを教えたい	9.0%
ボランティア活動をしたい	4.8%
地区や学校PTAの役員をしたい	0.6%
その他	1.8%
交流しなくていい	12.7%

【その他自由記述】

- よくわからない。
- たまたまあればいくかも。とくに交流したいじゃない(今知っている人だけで問題ない)。
- じぶんたちだけでOkです。

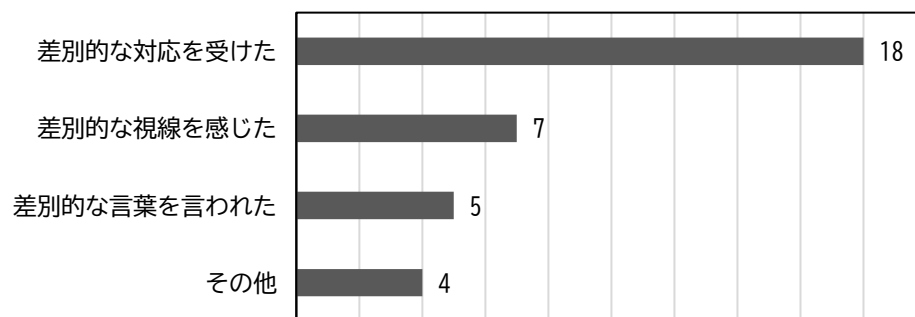
問 22 あなたは、伊賀市での生活において、3年以内に差別を受けた経験がありますか。

「ない」が77.7%で最も多く、「ある」が22.3%が続いています。今後も「ある」と回答した方の状況や背景を丁寧に把握し、必要に応じた対応や支援策を検討することが重要です。

ある	22.3%
ない	77.7%

問 23 具体的にどのようなことがあったかを可能な範囲で教えてください。

34人が回答をしています。その内容の分類は次の通りです。



5. 多文化共生のまちづくりについて

問 24 あなたは伊賀市内にある次の団体や施設を知っていますか。（複数選択可）

【n=166】

「いずれも知らない」が51.2%で最も多く、「伊賀市多文化共生センター」が28.9%で続いています。最も少ないのは「伊賀市社会福祉協議会」で7.8%です。多くの方が各団体について認知していない状況が見られるため、今後は情報発信や広報活動の強化が求められます。

伊賀市多文化共生センター	27.1%
NPO法人 伊賀の伝丸	8.4%
伊賀日本語の会	7.2%
伊賀市国際交流協会	4.8%
伊賀市社会福祉協議会	1.2%
いずれも知らない	51.2%

問 25 あなたは伊賀市内にある次の団体や施設を利用したことがありますか。（複数選択可）【n=166】

「いずれも利用したことがない」が40.7%で最も多く、「NPO 法人 伊賀の伝丸」が28.4%が続いています。最も少ないのは「伊賀市社会福祉協議会」で8.6%です。利用経験のない人が多いため、各団体の活動内容や利用方法のさらなる周知が必要と考えられます。

伊賀市多文化共生センター	22.2%
伊賀日本語の会	22.2%
伊賀市国際交流協会	16.0%
伊賀市社会福祉協議会	8.6%
NPO 法人伊賀の伝丸	28.4%
いずれも利用したことがない	40.7%

問 26 多文化共生のまちづくりに向けて、充実してきた（良くなった）と思う市の取組みはありますか。（複数選択可）【n=166】

「多言語による情報提供」が56.6%で最も多く、「外国人の日本語学習支援」が41.6%で続いています。最も少ないのは「特にない」で0.0%です。多言語による情報整備や日本語学習支援の要望が高いことから、今後も多様な言語対応や学習サポートの充実が期待されます。

多言語による情報提供	56.6%
外国人の日本語学習支援	41.6%
外国人相談窓口	37.3%
日本の法律や生活上のルールなどの案内	30.7%
外国人の子どもに対する教育	21.7%
差別や偏見をなくし、多様性を尊重する意識づくり	21.7%
日本と外国の生活習慣や文化などの紹介	18.7%
日本人と外国人の交流イベントの企画	17.5%
小さな子ども（0歳～6歳）がいる外国人の子育て支援	15.1%
外国人を支援するボランティアを育てる	14.5%
地域での多文化交流をすすめる	12.0%
その他	21.7%
特にない	0.0%

【その他自由記述】

- 相談窓口の改善について 時々、孫の面倒を見るために娘と一緒に窓口に行くのですが、対応するスタッフは十分な訓練を受けていません。若い通訳者は私たちの言語の語彙を使いこなせず、彼らの話すことは理解できません。(略)どうか職員を教育してください。

- 機関の名前はよくわからないが、市役所が助けてくれる。
- お互いに挨拶する。

問 27 外国人と日本人が交流し、地域で一緒に生活するために、市はどんなことに重点的に取り組む必要があると思いますか。（3つまで選択可）【n=166】

「外国人の日本語学習支援」が54.8%で最も多く、「多言語による情報提供の充実」が41.6%が続いています。最も少ないのは「特にない」で0.0%です。日本語学習や情報提供の充実が重視されていることから、言語面でのサポート体制をさらに強化することが今後の課題と考えられます。

外国人の日本語学習支援	54.8%
多言語による情報提供の充実	41.6%
日本の法律や生活上のルールなどの案内	32.5%
差別や偏見をなくし、多様性を尊重する意識づくり	20.5%
外国人相談窓口の充実	16.9%
日本と外国の生活習慣や文化などの紹介	10.2%
日本人と外国人が意見を交換する場づくり	9.6%
外国人の子どもに対する教育の充実	9.0%
日本人と外国人の交流イベントの企画	7.2%
地域での多文化交流をすすめる	6.0%
小さな子ども（0歳～6歳）がいる外国人の子育て支援	4.8%
自治会活動に参加をすすめる	3.6%
外国人を支援するボランティアを育てる	2.4%
その他	12.7%
特にない	0.0%

【その他自由記述】

- 外国人だけでなく日本人にも教育が必要です。今でも外国人は税金を払っていないと思っている日本人がいます。(略)
- タイ語での情報がない。あるといい。
- もっとお金ほしい。

問 28 伊賀市に住んで良かったと感じていますか。1つ選んでください。

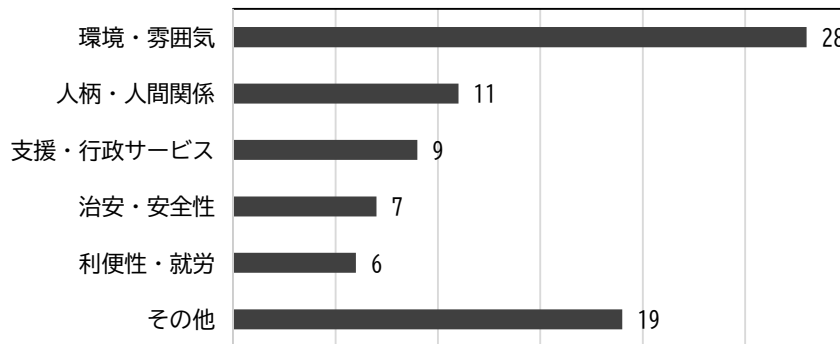
「とても感じている」が43.4%で最も多く、「だいたい感じている」が40.4%が続いています。最も少ないのは「全く感じている」で3.6%です。

とても感じている	43.4%
だいたい感じている	40.4%
どちらでもない	7.8%
あまり感じている	4.8%
全く感じている	3.6%

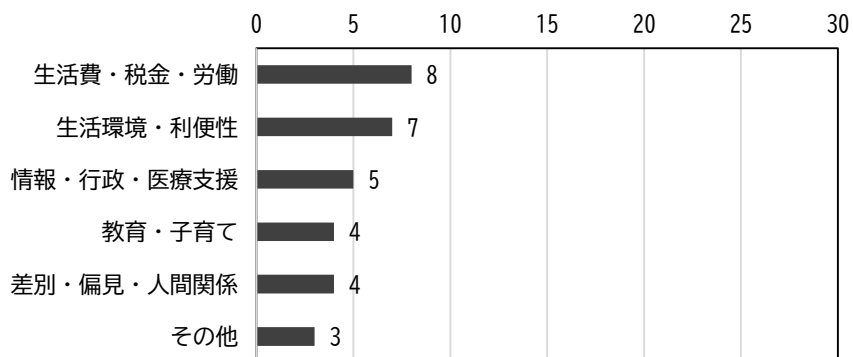
問 29 問 28 の伊賀市に住んで良かったと思う理由・良くないと思う理由を教えてください。

88 人の人が記述し、そのうち良かった理由は 80 件、良くない理由は 31 件、中立的な意見は 8 件でした。その内容は以下の通りです。

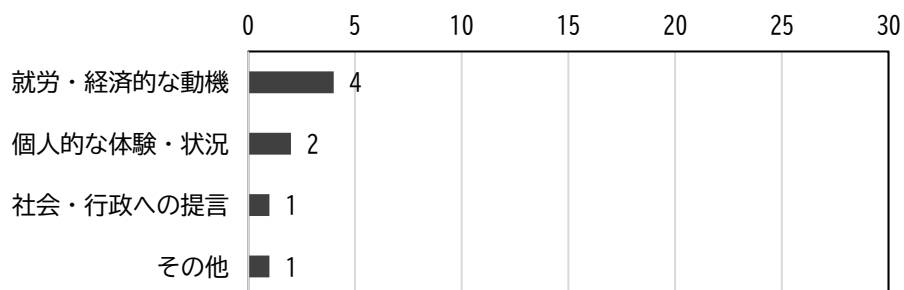
● 良かったと思う理由



● 良くないと思う理由

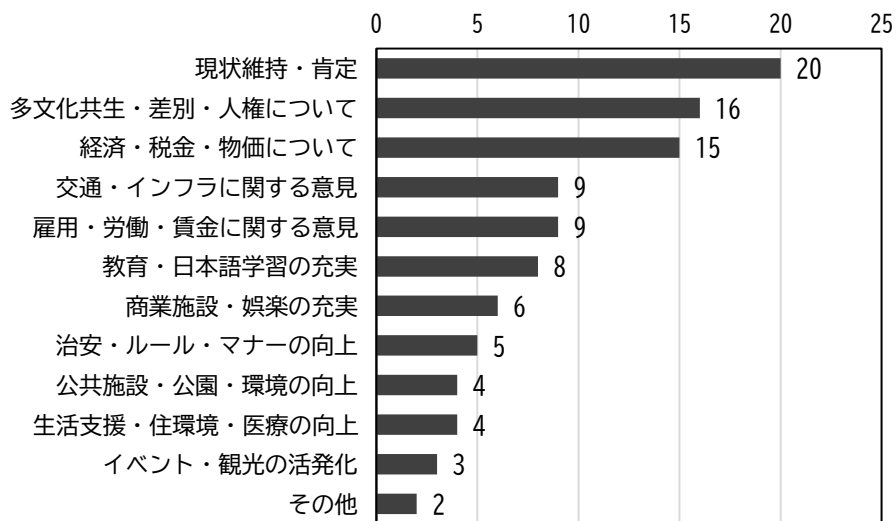


● 中立的な理由



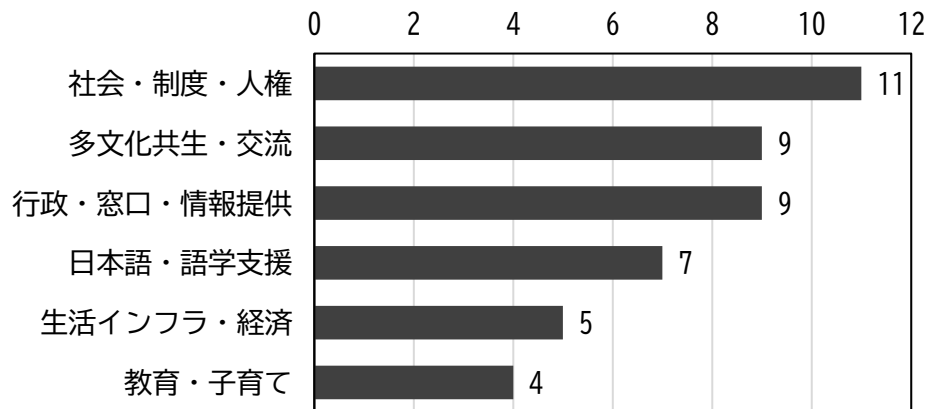
問 30 伊賀市がどのようになればもっと住みやすくなると思いますか。

79 人が 101 件の意見を記述しました。その内容は以下の通りです。



問 31 伊賀市の多文化共生の取組みについて、ご意見やご要望などありましたら教えてください。

38 人が 45 件の意見を記述しました。その内容は下記の通りです。



第4部 事業所調査

1. 事業所について

問1 事業所の業種【n=30】

「製造業」が53.3%で最も多く、「サービス業」が13.3%が続いています。最も少ないのは「宿泊業・飲食サービス業」で0.0%です。特定の業種に偏りが見られるため、今後は対象業種の幅を広げて状況を把握することが重要です。

製造業	53.3%
サービス業	13.3%
建設業	10.0%
人材派遣業	10.0%
医療・福祉	6.7%
運輸業・郵便業	3.3%
卸売業・小売業	3.3%
教育・学習支援業	0.0%
宿泊業・飲食サービス業	0.0%
その他	13.3%

問2 現在の従業員数【n=30】

「31～50人」が33.3%で最も多く、「51～100人」が23.3%が続いています。最も少ないのは「300人以上」で0.0%です。多くの回答が50人以下に集中しており、規模が大きいケースは非常に少ないことから、今後は中小規模への支援や対応策を検討することが重要です。

10人未満	6.7%
10～30人	20.0%
31～50人	33.3%
51～100人	23.3%
101～300人	16.7%
300人以上	0.0%


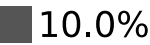
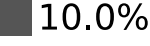

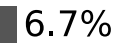


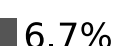


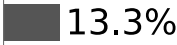
問3 外国人の雇用有無【n=30】

「雇用している」が60.0%で最も多く、「雇用していない」が40.0%が続いています。雇用状況の違いに応じた支援策や情報提供を検討することが今後の取り組みとして有効です。

雇用している	 60.0%
雇用していない	 40.0%

外国人の雇用有無と業種・規模（問1×問3・問2×問3クロス集計）

外国人雇用を業種別に見ると、製造業、サービス業、人材派遣業は半数以上の事業所が外国人を雇用しているのに対して、それ以外の事業所は雇用していません。一方、規模別に見ると、規模とは関係がないことがわかります。今後、外国人を雇用する業種が拡大していくか、注視する必要があります。

	雇用している	雇用していない
製造業	 43.3%	 10.0%
建設業	0.0%	 10.0%
サービス業	 6.7%	 6.7%
人材派遣業	 6.7%	 3.3%
医療・福祉	0.0%	 6.7%
運輸業・郵便業	0.0%	 3.3%
卸売業・小売業	0.0%	 3.3%
教育・学習支援業	0.0%	0.0%
宿泊業・飲食サービス業	0.0%	0.0%
その他	 13.3%	0.0%

	雇用している	雇用していない
10人未満	■ 3.3%	■ 3.3%
10～30人	■ 13.3%	■ 6.7%
31～50人	■ 16.7%	■ 16.7%
51～100人	■ 16.7%	■ 6.7%
101～300人	■ 10.0%	■ 6.7%
300人以上	0.0%	0.0%

2. 外国人を雇用していない事業所の回答

問4 今後の外国人雇用の可能性【n=12】

「あまりない」が33.3%が最も多く、「分からない」が25.0%で続いており、「全くない」を合わせると、現在外国人を雇用していない事業所の75%が外国人雇用を予定していないことがわかります。

大いにある	8.3%
少しある	16.7%
分からない	25.0%
あまりない	33.3%
まったくない	16.7%

問5 外国人雇用での心配・不安【n=11】

「言葉が通じず、コミュニケーションが取れないこと」が81.8%で最も多く、「日本で生活するルールや習慣を知らずに、トラブルが起きてしまうこと」が45.5%で続いています。「不安を感じることはない」と答えた事業者はおらず、外国人を雇用していない事業所の全てが、何らかの不安を感じていることがうかがえます。

言葉が通じず、 コミュニケーションが取れないこと	81.8%
日本で生活するルールや習慣を知ら ずに、トラブルが起きてしまうこと	45.5%
具体的にはないが、 漠然とした不安を持っている	18.2%
日本人従業員と交流できないこと	9.1%
不安を感じることはない	0.0%

問6 外国人雇用に関する市への意見・要望

現時点で外国人を雇用していない事業所からの要望は、次の意見でした。

【自由記述】

- 雇用にかかる費用（住宅費、エージェント料等）の負担が大きい

3. 外国人を雇用している事業所の回答

問7 外国人雇用の開始時期【n=18】

「10年以上前」が66.7%で最も多く、「3～5年前」が38.9%が続いています。半数以上の事業所が10年以上前から外国人雇用をしている一方で、3年以内に始めた事業所はならず、伊賀市事業所の外国人雇用は近年急増しているというよりも定着・安定段階に入っている可能性が考えられます。

1年以内	0.0%
1～3年前	0.0%
3～5年前	38.9%
5～10年前	11.1%
10年以上前	66.7%
分からない	0.0%

問8 外国人従業員の雇用形態【n=17】

「正社員」が76.5%で最も多く、「契約社員(直接雇用)」が29.4%が続いています。正社員の比率が高いことから、外国人材を一時的な労働力としてではなく、長期的に活躍してもらう人材として位置付けている事業所が多いことがうかがえます。

正社員	76.5%
契約社員(直接雇用)	29.4%
契約社員(間接雇用)	0.0%
パート・アルバイト	23.5%
派遣・請負	23.5%
その他	29.4%

【その他自由記述】

- 実習生 2社
- 技能実習生
- 技能実習
- 特定技能実習生

問8(2) 雇用形態別外国人従業員数【n=18】

外国人雇用が小規模の事業所は、雇用形態は多様である一方、規模が大きくなると正社員が中心となっており、雇用形態が比較的安定した形に集約される傾向がみられます。これは、規模の大きい事業所ほど人員配置や業務分担が体系化されており、外国人材を中長期的な戦力として位置付ける体制が整っているためと考えられます。一方、小規模事業所では、業務内容や人手不足の状況に応じて契約社員やパート、派遣などを組み合わせるなど、より柔軟な対応が取られている可能性があり、事業規模によって外国人雇用の位置付けや運用方針に違いがあることがうかがえます。

人数	正社員	契約社員 (直接雇用)	契約社員 (間接雇用)	パート・ アルバイト	派遣・請負	その他
1-9人	44.4%	22.2%	0.0%	16.7%	11.1%	11.1%
10-19人	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	11.1%
20-29人	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%
30-39人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
40-49人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50人以上	16.7%	5.6%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%

問9(1) 外国人従業員の滞在資格【n=18】

「技能実習」が64.7%で最も多く、「特定技能」が47.1%が続いています。技能実習や特定技能は、業種や職種が一定程度限定されている一方で、制度上の枠組みや支援体制が整っているため、事業所にとって導入しやすい在留資格であると考えられます。今後は、事業所のニーズや地域の産業構造に応じて、多様な在留資格の活用や人材の定着支援を検討していくことも課題と考えられます。

永住者	35.3%
定住者	17.6%
技能実習	64.7%
家族滞在	5.9%
技術・人文知識・国際業務	41.2%
特定技能	47.1%
特別永住者	5.9%
日本人の配偶者等	0.0%
その他	5.9%

問9(2) 滞在資格別外国人従業員数【n=18】

人数	永住者	定住者	技能実習	技術・人文知識・国際業務	日本人の配偶者等	家族滞在	特定技能	特別永住者	その他
1-9人	27.8%	5.6%	38.9%	22.2%	0.0%	5.6%	22.2%	5.6%	0.0%
10-19人	5.6%	11.1%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%	0.0%	5.6%
20-29人	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%
30-39人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%
40-49人	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50人以上	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問10 外国人従業員の募集方法【n=18】

「監理団体の紹介」が66.7%で最も多く、「民間の職業紹介機関の紹介」が33.3%で続いています。外国人材の確保にあたっては、外部機関を通じた受入れが主流となっていることがうかがえます。特に、監理団体を通じた受入れが多いことは、技能実習制度を活用している事業所が多いこととも整合しており、制度に基づくルートが中心となっている実態を反映していると考えられます。一方で、民間の職業紹介機関の活用も一定割合みられることから、特定技能など比較的柔軟な在留資格の活用や、人材確保の手段の多様化も進みつつあることがうかがえます。このことから、現状では制度的な枠組みに依拠した受入れが中心であるものの、今後は事業所のニーズに応じて、多様な紹介ルートの活用が広がる可能性もあると考えられます。

監理団体の紹介	66.7%
民間の職業紹介機関の紹介	33.3%
ハローワークの紹介	22.2%
自社の担当者が海外で現地採用	22.2%
従業員の紹介	22.2%
求人広告	0.0%
教育機関の紹介	0.0%
その他	5.6%

問11 通訳者の有無【n=18】

「いる」が72.2%で大半を占めています。

いる	72.2%
いない	27.8%

問12 通訳可能な言語【n=13】

「ベトナム語」が84.6%で最も多く、「インドネシア語」が23.1%で続いており、それ以外の言語はいずれも10%以下であり、0.0%の言語も4カ国あります。対応可能な言語が特定の国籍に大きく偏っている状況がうかがえます。ベトナム語が突出して高いことは、受け入れている外国人材の国籍構成を反映していると考えられますが、一方で、その他の言語への対応は限定的であり、国籍の多様化が進んだ場合には十分な支援が行き届かない可能性も示唆されます。

ベトナム語	84.6%
インドネシア語	23.1%
タガログ語	7.7%
ポルトガル語	7.7%
英語	7.7%
スペイン語	0.0%
タイ語	0.0%
韓国語	0.0%
中国語	0.0%
その他	7.7%

問13 翻訳機・アプリの活用状況【n=17】

「活用している」が64.7%で、半数以上の事業所で活用されていることがうかがえます。今後は「活用していない」層に対して、活用事例の共有やサポート体制の強化を検討することが有効と考えられます。

活用している	64.7%
活用していない	35.3%

問 14 外国人従業員への生活指導内容【n=18】

「ゴミの分別」が100.0%で最も多く、「交通安全」が88.9%が続いています。地域生活の基本的なルールに関する指導が優先されている状況がうかがえます。ゴミの分別や交通安全といった項目は、日常生活や地域社会との関わりに直結する内容であり、事業所としてもトラブル防止や円滑な共生を図る観点から重視していると考えられます。今後は生活ルールの周知にとどまらず、地域社会への参加や自立支援につながる内容へと指導の幅を広げていくことも課題と考えられます。

ゴミの分別	100.0%
交通安全	88.9%
健康・疾病予防	77.8%
納税・確定申告	72.2%
防災	66.7%
防犯	66.7%
生活情報提供	61.1%
行政情報提供	33.3%
就学・進路	27.8%
その他	0.0%
何も行ってない	0.0%

問 15 外国人従業員への説明・指導内容【n=17】

「雇用契約に関すること」が88.2%で最も多く、「就業規則に関すること」が82.4%で続いています。雇用契約や就業規則は、労働条件や権利・義務に直結する重要な内容であり、事業所としてもトラブル防止や円滑な就労環境の確保を目的に重視していると考えられます。一方で、こうした制度的・事務的な説明に比べ、キャリア形成や能力向上支援などの中長期的な視点に関する取組がどの程度行われているかについては、今後の課題となる可能性もあります。

雇用契約に関すること	88.2%
就業規則に関すること	82.4%
労働災害に関すること	76.5%
労働基準法に関すること	64.7%
各種ハラスメントに関すること	47.1%
労働調整法に関すること	17.6%
労働組合法に関すること	11.8%
その他	0.0%
何も行っていない	5.9%

問 16 日本語教育の内容【n=18】

「日常会話」が77.8%で最も多く、「職場での会話」が77.8%が続いています。「何も行っていない」と答えた事業者も22.2%いました。日常生活や職場での会話が主な学習機会となっている現状から、より多様な日本語学習の場の提供を検討することが求められます。

職場での会話	77.8%
日常会話	77.8%
日本語能力試験対策	44.4%
日報や仕様書等の読み書き	38.9%
ひらがな・カタカナ・漢字の読み書き	33.3%
その他	0.0%
何も行っていない	22.2%

問 17 日本語教育の実施場所【n=17】

「社内で」が76.5%で最も多く、「自学自習させている」が41.2%が続いています。社内での対応が主流となっていますが、複数の手法を組み合わせている様子も見受けられるため、効果的な支援策の検討が求められます。

社内で	76.5%
自学自習させている	41.2%
派遣元で	35.3%
市内の日本語教室に通わせている	11.8%
オンライン学習をさせている	5.9%
その他	0.0%

問 18 日本語教育の担当者【n=13】

「日本語教育の資格を持たない社内の人」が 69.2%で最も多く、「その他」が 23.1%で続いています。「日本語教育の資格を持った日本語教師」は 0.0%でした。有資格者の活用が進んでいないことがうかがえます。日本語指導の質向上のため、外部有資格者の活用や社内研修の充実が課題となります。

日本語教育の資格を持たない社内の人	69.2%
日本語教育の資格を持たない外部の人	7.7%
日本語教育の資格を持った日本語教師	0.0%
その他	23.1%

問 19 日本語教育の時間【n=13】

「不定期」が 76.9%で最も多く、「月に1時間程度」が 15.4%で続いています。「不定期」に大きく偏っており、定期的な実施は少数にとどまっています。業務の繁忙や担当者の体制に左右されている可能性があり、計画的な時間確保や仕組み化の強化が必要です。

月に1時間程度	15.4%
月に2, 3時間程度	0.0%
週に1時間程度	7.7%
週に2, 3時間程度	0.0%
週に4時間以上	0.0%
不定期	76.9%

問 20 日本語力向上による優遇措置の有無【n=18】

「ない」が55.6%で、「ある」と44.4%と拮抗しています。このような状況には、取組実施の必要性や優先度に対する認識の違いが影響している可能性があります。対応の格差解消に向けて、取組意義の共有や実施事例の普及を進めることが重要です。

ある	44.4%
ない	55.6%

問 21 優遇措置の具体的内容【n=8】

「昇給」が62.5%で最も多く、「賞与」が50.0%が続いています。報酬面でのインセンティブが重視される一方、キャリアアップを意識した制度が不足している現状がうかがえます。昇給や賞与だけでなく、正社員登用や昇級、異動といった多様なモチベーション維持策の充実が課題です。

昇給	62.5%
賞与	50.0%
表彰	12.5%
希望する部署への異動	0.0%
昇級	0.0%
正社員への登用	0.0%
その他	25.0%

問 22 その他の生活・学習支援の有無【n=18】

「ない」が61.1%で半数を超えています。今後の施策を検討する際には、「ない」と回答した方が多数を占めている現状を踏まえたアプローチが求められます。

ある	38.9%
ない	61.1%

問 23 支援の具体的内容

【その他自由記述】

- 生活支援。
- 祈り部屋（宗教上）。
- リフト免許取得費用等。
- 三級整備士の講習の補助。
- 自転車購入 シャワートイレ生活の場のリフォーム 社宅に金庫やカギをつける。

問 24 外国人従業員雇用に関する満足度【n=18】

「おおむね満足している」が55.6%で最も多く、「とても満足している」が16.7%で続いています。「とても不満がある」と答えた方は0.0%でした。満足層が全体の7割超を占める一方、「やや不満がある」や「どちらとも言えない」も一定数存在しています。高評価が中心ですが、更なる満足度向上には一部の不満点や曖昧な点の具体的な把握と改善策の検討が必要です。

とても満足している	16.7%
おおむね満足している	55.6%
どちらとも言えない	11.1%
やや不満がある	16.7%
とても不満がある	0.0%

問 25 雇用満足度の理由

【その他自由記述】

- 個人差はあるが、真面目で、日本人の対応が良ければ、しっかりと応えてくれる
- 普通に仕事をしてきている。
- 人材不足解消に貢献してくれている。
- 日本に来た当初は真面目に一生懸命頑張るが先輩たち（外国の）からの影響等で楽な方へ流れてしまうところがある
- 人員の確保
- 日本の生活になれてきて、法律を守らなかつたりする。（交通ルールなど）
- 監理団体の支援料が毎月必要となる
- よく働いて、元気に過ごしてくれている
- 高齢化に伴う人材確保が困難な中、非常に戦力になっている。
- 日本語による読み書きに問題なく、勤務態度が良好。
- まじめに仕事に取り組んでいる 試験にも合格して来た。
- 言葉が通じず日本人より手がかかるが、給与は日本人と同等にしないといけないところ。

問 26 日本人従業員への理解促進の取組み【n=9】

「異文化コミュニケーション教育」が 66.7%で最も多く、「外国の労働法、労働慣行等の紹介」が 55.6%で続いています。最も少ないのは「トラブルの対処法・回避」で 0.0%です。今後は、少数の選択肢にも目を向け、より幅広い支援内容の検討が求められます。

異文化コミュニケーション教育	66.7%
外国の労働法・労働慣行等の紹介	55.6%
外国語教育	44.4%
やさしい日本語の紹介	44.4%
トラブルの対処法・回避	0.0%
その他	22.2%
何も行っていない	0.0%

問 27 日本人・外国人従業員の交流機会【n=16】

「社内での交流イベントの開催」が62.5%で最も多く、「何も行っていない」が25.0%で続いています。最も少ないのは「消防団等地域活動への参加促進」で0.0%です。社内イベントが主流となる一方、地域活動への参加促進が進んでいないため、今後は地域との連携強化も検討することが望まれます。

社内での交流イベントの開催	62.5%
社会貢献活動	18.8%
地域行事への参加促進	12.5%
消防団等地域活動への参加促進	0.0%
その他	12.5%
何も行っていない	25.0%

問 28 従業員間トラブルの有無【n=18】

「なかった」が94.4%で最も多く、「あった」が5.6%で続いています。多くの回答者が「なかった」としていることから、今後も状況に変化がないか引き続き観察が必要です。

あった	5.6%
なかった	94.4%

問 29 従業員間トラブルの具体的内容

- 意思疎通が取れず、口論になった。(日本人側が一方向的に)

問 30 地域住民とのトラブル有無【n=18】

「なかった」が83.3%で大半を占めています。大多数が「なかった」と回答していることから、該当する出来事や状況に限られた範囲でしか発生していないことに留意する必要があります。

あった	16.7%
なかった	83.3%

問 31 地域住民とのトラブル具体的内容

- 音楽を流す時間帯（21時以降）、音量などの苦情
- ゴミ出し、騒音
- 大きい声で歌をうたう。

問 32 災害時の外国人従業員対応の規定【n=17】

「定めていない」が58.8%で最も多く、「定めている」が29.4%が続いています。最も少ないのは「現在、策定中」で11.8%です。今後は「定めていない」割合の高さを踏まえ、方針策定の支援や情報提供を強化することが望まれます。

定めている	29.4%
現在、策定中	11.8%
定めていない	58.8%

問 33 感染症の外国人従業員対応の規定【n=17】

「定めている」が58.8%で最も多く、「定めていない」が41.2%が続いています。ガイドラインの有無にばらつきが見られるため、策定状況を把握した上で必要に応じた支援や情報提供を検討することが重要です。

定めている	58.8%
現在、策定中	0.0%
定めていない	41.2%

クロス集計による日本人と外国人との交流の現状比較

① 日本人の交流の現状と希望について（問 9, 問 10）

「問 9 日常生活で外国人とどの程度の交流がありますか」、という問いに対し、「交流がない」と答えた日本人は 40.9%でした。あいさつをする程度の 29.6%を加えると、約 7 割の人が交流がないか、軽度の交流にとどまっています。

一方、「問 10 あなたは今後、外国人とどのような交流があるといいと思いますか」という問いに対し、交流の希望を見てみると、「交流しなくてよい」と答えた人は約 3 割いる一方で、「地域の行事に参加して欲しい」「近所や地域で親しくしたい」「外国の文化を紹介して欲しい」「日本の文化や習慣などを教えたい」と積極的に交流を求める人がいずれも 3 割以上います。このように、日本人の外国人との交流には希望と現実とのギャップが存在しています。

【問 9 交流の現状】

家族同様に親しく付き合う程度	3.5%
困ったときに助け合える程度	4.3%
日常生活の話（世間話）をする程度	17.5%
あいさつをする程度	29.6%
その他	4.3%
交流がない	40.9%

【問 10 交流の希望】

地域の行事に参加してほしい	38.8%
近所や地域で親しくしたい	37.3%
外国の文化を紹介してほしい	32.9%
日本の文化や習慣などを教えたい	32.5%
ボランティア活動に参加してほしい	17.6%
その他	2.4%
交流をしなくてよい	28.6%

日本人の外国人との交流の状況をさらに分析するために、年齢（3区分）、雇用形態（4区分）でクロス集計を行いました。

年齢別に見てみると、「家族同様に親しく付き合う程度」と答えた人は、60歳以上は5.3%と、他の年代の倍になっていますが、それ以外の比率は、年齢により大きな差は認められません。一方、交流の希望を見ると、上位4位はいずれも高齢者になるほど比率が高くなっており、高齢者ほどその希望が大きいことが見て取れます。

雇用形態別に見てみると、「交流がない」と答えた人は、学生・無職・主婦（夫）では6割を超えており、職場以外での交流の機会が、あまり多くないことがうかがえます。一方、交流の希望は、派遣社員・パートの人が高く、学生・無職・主婦（夫）が続いており、自営業・正社員が最も低くなっています。

問9 交流の現状
(年齢3区分)

%	年代3区分の項目			
	合計	18～39歳	40～59歳	60歳以上
全体	257	39	105	113
家族同様に親しく付き合う程度	3.5	2.6	1.9	5.3
困ったときに助け合える程度	4.3	2.6	4.8	4.4
日常生活の話（世間話）をする程度	17.5	20.5	20.0	14.2
あいさつをする程度	29.6	28.2	31.4	28.3
その他	4.3	2.6	4.8	4.4
交流がない	40.9	43.6	37.1	43.4

問10 交流の希望

%	年代3区分の項目			
	合計	18～39歳	40～59歳	60歳以上
全体	255	39	104	112
地域の行事に参加してほしい	38.8	28.2	33.7	47.3
近所や地域で親しくしたい	37.3	20.5	35.6	44.6
外国の文化を紹介してほしい	32.9	25.6	33.7	34.8
日本の文化や習慣などを教えたい	32.5	23.1	27.9	40.2
ボランティア活動に参加してほしい	17.6	17.9	12.5	22.3
その他	2.4	2.6	3.8	0.9
交流をしなくてよい	28.6	43.6	31.7	20.5

問9 交流の現状
(雇用4区分)

%	雇用形態4区分の項目				
	合計	自営業・正社員	派遣社員・パート	学生・無職・主婦（夫）	その他
全体	257	125	61	61	10
家族同様に親しく付き合う程度	3.5	1.6	6.6	3.3	10.0
困ったときに助け合える程度	4.3	5.6	3.3	1.6	10.0
日常生活の話（世間話）をする程度	17.5	24.0	13.1	8.2	20.0
あいさつをする程度	29.6	28.8	42.6	19.7	20.0
その他	4.3	5.6	3.3	3.3	-
交流がない	40.9	34.4	31.1	63.9	40.0

問10 交流の希望

%	雇用形態4区分の項目				
	合計	自営業・正社員	派遣社員・パート	学生・無職・主婦（夫）	その他
全体	255	125	60	61	9
地域の行事に参加してほしい	38.8	28.8	58.3	37.7	55.6
近所や地域で親しくしたい	37.3	32.0	50.0	37.7	22.2
外国の文化を紹介してほしい	32.9	29.6	48.3	24.6	33.3
日本の文化や習慣などを教えたい	32.5	28.0	41.7	31.1	44.4
ボランティア活動に参加してほしい	17.6	14.4	25.0	16.4	22.2
その他	2.4	4.0	-	1.6	-
交流をしなくてよい	28.6	34.4	15.0	29.5	33.3

② 外国人の交流の現状と希望について（問 19、問 21）

「問 19 日常生活で日本人とどの程度の交流がありますか」という問いに対して「あいさつをする程度」と答えたひとが 40.4%で最も多く、「日常生活の話（世話話）をする程度」と答えた人を加えると、約 7 割の人が軽度な交流にとどまっています。一方、「交流がない」と答えた人は 1.8%でわずかでした。

「問 21 今後、日常生活で日本人とどのような交流・活動をしたいですか」という問いに対して、「近所や地域の人と親しくしたい」と答えた人が半数を超えている一方で、他の回答はいずれも 20%以下であり、活動への参加よりも親しいお付き合いを望む傾向が強くなっています。

【問 19 交流の現状】

家族同様に親しく付き合う程度	1.8%
困ったときに助け合える程度	18.7%
日常生活の話（世間話）をする程度	31.9%
あいさつをする程度	40.4%
その他	5.4%
交流がない	1.8%

【問 21 交流の希望】

近所や地域の人と親しくしたい	57.2%
地区の活動（清掃活動・祭りなど）に参加したい	13.9%
母国の文化や習慣などを教えたい	9.0%
ボランティア活動をしたい	4.8%
地区や学校PTAの役員をしたい	0.6%
その他	1.8%
交流しなくていい	12.7%

外国人については、年齢3区分と国籍でクロス集計を行いました。

問19について年齢別に見ると、18～39歳では、「あいさつをする程度」が46.6%で最も高いのに対して、60歳以上では「日常生活の話（世間話）をする程度」が45.5%で最も高く、高齢者の方が交流が深いとみられますが、「家族同様に親しく付き合う程度」の交流をしている人はごく少数にとどまります。問21の希望を見ると、いずれの年齢も「近所や地域の人と親しくしたい」と答えた人が、半数を超えていますが、「交流しなくていい」と答えた人は高齢者の方が高くなっています。

国籍別に見ると、問19では、フィリピンの方が「日常生活の話（世間話）をする程度」と答えた人が最も多くなっていますが、それ以外の国籍の人は「あいさつ程度」が最も多くなっています。

問21では、ブラジルの方は「近所や地域の人と親しくしたい」と答えた人が約7割と、大半を占めている一方で、「地区の活動（清掃活動・祭りなど）に参加したい」と答えた人はいませんでした。一方、ベトナム、フィリピン、中国の方は「地区活動（清掃活動・祭りなど）に参加したい」と答えた人が2割前後おり、国籍により希望する交流の方法に違いが見られます。

また「交流しなくていい」と答えた人は、フィリピンの方が23.5%と最も多くなっています。

問19 交流の現状
(年齢3区分)

%	年齢3区分の項目			
	合計	18～39歳	40～59歳	60歳以上
全体	166	103	52	11
家族同様に親しく付き合う程度	1.8	1.9	1.9	-
困ったときに助け合える程度	18.7	11.7	32.7	18.2
日常生活の話（世間話）をする程度	31.9	31.1	30.8	45.5
あいさつをする程度	40.4	46.6	32.7	18.2
その他	5.4	6.8	1.9	9.1
交流がない	1.8	1.9	-	9.1

問21 交流の希望

%	年齢3区分の項目			
	合計	18～39歳	40～59歳	60歳以上
全体	166	103	52	11
近所や地域の人と親しくしたい	57.2	54.4	63.5	54.5
地区の活動（清掃活動・祭りなど）に参加したい	13.9	17.5	9.6	-
地区や学校PTAの役員をしたい	0.6	1.0	-	-
母国の文化や習慣などを教えたい	9.0	9.7	7.7	9.1
ボランティア活動をしたい	4.8	4.9	3.8	9.1
交流しなくていい	12.7	11.7	13.5	18.2
その他	1.8	1.0	1.9	9.1

(国籍5区分)

問19 交流の現状

%	国籍5区分					
	合計	ブラジル	ベトナム	フィリピン	中国	その他
全体	166	50	44	17	19	36
家族同様に親しく付き合う程度	1.8	-	2.3	11.8	-	-
困ったときに助け合える程度	18.7	32.0	11.4	-	10.5	22.2
日常生活の話（世間話）をする程度	31.9	28.0	34.1	47.1	31.6	27.8
あいさつをする程度	40.4	32.0	45.5	29.4	52.6	44.4
その他	5.4	4.0	6.8	11.8	5.3	2.8
交流がない	1.8	4.0	-	-	-	2.8

問21 交流の希望

%	国籍5区分					
	合計	ブラジル	ベトナム	フィリピン	中国	その他
全体	166	50	44	17	19	36
近所や地域の人と親しくしたい	57.2	70.0	47.7	52.9	36.8	63.9
地区の活動（清掃活動・祭りなど）に参加したい	13.9	-	20.5	17.6	21.1	19.4
地区や学校PTAの役員をしたい	0.6	-	2.3	-	-	-
母国の文化や習慣などを教えたい	9.0	2.0	22.7	5.9	15.8	-
ボランティア活動をしたい	4.8	10.0	-	-	10.5	2.8
交流しなくていい	12.7	16.0	6.8	23.5	15.8	8.3
その他	1.8	2.0	-	-	-	5.6